

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190400125		
法人名	社会福祉法人 真正会		
事業所名	真正会 グループホーム アダーズあいな		
所在地	埼玉県川越市安比奈新田278-2		
自己評価作成日	令和8年2月13日	評価結果市町村受理日	令和8年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 埼玉県介護支援専門員協会
所在地	埼玉県さいたま市浦和区仲町2-13-8 ほまれ会館3階
訪問調査日	令和8年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・認知症による症状が顕著にみられても、フラストレーションに陥ることなく、可能な限り自立し、安心して暮らすことのできるストレスフリーな環境を提供出来るように努力しています。 ・一人一人の意向を大切に、安心して穏やかに生活ができるような環境づくりを心掛けています。可能な限り自立し安心して暮らすことが出来るよう入居者の生活をサポートしています。 ・利用者のできることを活かした支援をしている。 ・定期的なミーティングや勉強会を開催し様々な知識やスキルの向上、スタッフ間のコミュニケーションがとれるように努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・住宅地の中に木の温もりを活かした平屋造り建物が「普通の家」に近い安心感を与えています。中庭にはウッドデッキがあり陽当たりよく、庭には小さな畑があり、野菜を植えたりして「生活の場」として優れた環境です。歩いて5分のところに同法人の病院、特養、地域交流センターがあり、利用者との交流が行えている。 ・認知症介護実践者研修で良い成果を出した職員が在籍しており、その学びが現場にも活かされ実利に結びついています。向上心豊かな職員が揃っている強みがあります。 ・オーストラリアの研修で学んだ認知症ケアの考えを取り入れ、「老人にも明日がある」という法人理念が、対話場を通じて職員間に深く浸透しています ・利用者の楽しみや生きがいに重視したケアの実践を積極的に進めており、「その人らしさ」を捉えようとする姿勢があります
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月開催される理事長講話の講話内容を各スタッフへ伝えるよう努めている。また、かすみケアグループの毎年のテーマを掲げて、実践に活かしている。	法人理念は「アダーズカフェ」という職員ミーティングの場で会話を通じて共有し、日々のケアに反映させている。また、法人理念に基づく法人内研究発表を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の園芸ボランティアが定期的に入っている。地域への還元が足りていない。	地域の園芸ボランティア「かすみ助け合いの会」との交流がありますが、ボランティアの高齢化による畑の継続が課題となっており、地域に役立てることや新たな地域資源の開拓を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの小学校の通学路にもなっているので、「子供110番の家」に登録や中学生の職業体験の受け入れなど、認知症の方との接点をもてる機会をつくっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域包括支援センター職員、民生委員、地域のボランティアへ写真などを使用し近況報告や意見交換を行っている。	敷地内にある「ハミングガーデン」でフェスタを開催し、写真を用いた報告を行い、他事業所も参加するなど、オープンな会議運営を通じて横の繋がりを強化している。	社会福祉協議会や自治会の会長などの参加を呼び掛けることで社会資源の発掘などの課題が解消されることを期待する
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と連絡を取っている。とりわけ、利用者、家族とトラブルになりそうなことを未然に防ぐために、疑問に思うことや不明な点は積極的に相談するように努めている。	制度上の不明点や、親族間の複雑なケースへの対応について、積極的に市町村へ相談し、助言を仰いでいる	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員へ毎月リスクマネジメントのミーティング(法人内のセーフティケア委員会)を行い身体拘束や不適切なケアに関しての知識を深め利用者本位のケアを徹底している。	法人全体のeラーニングや動画研修を活用し、言葉による拘束(スピーチロック)も含め、職員間でコミュニケーションを図りながら、不適切ケアの防止に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の委員会を中心に定期的な研修を受けられる機会を設けている。また、案件については、法人組織として機能するよう連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族からの相談に応じて、関係機関への紹介をしている。また、社会福祉協議会からのお知らせなどは家族へも周知に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の施設見学の際も不安な点などは確認している。特に入居後間もない期間は連絡を密にとり、信頼関係作りを努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議より参加された利用者や家族から意見を聴衆し、議事録や写真での報告を閲覧できる工夫をしている。	面会時やメールでの密な連絡に加え、行事の際の会話から要望を汲み取り、運営に反映させる努力をしている。改善点などは積極的に聞き取りを行っている。また、他グループホームとの交流もあり情報共有している	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度初めに職員ミーティング「アダーズカフェ」を開催し、スタッフと話し合いの場を持ち年間を通じて、目標をさだめている。楽しみややりたいことを意見として出し合い具体的にすすめている。	「アダーズカフェ」やKJ法を用いたミーティングを実施し、スタッフ全員が目標や「やりたいこと」を出し合える環境を作り、目標を立てている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回1on1ミーティングを通じて、具体的な目標を立てられるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の委員会を中心に研修の案内をし、eラーニングなどを活用しながらスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年1回、かすみケアグループ(社会福祉法人、医療法人、一般社団法人)内で研究発表会を開催している。ケア向上の機会となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に、本人への実地調査や家族への聞き取り、基本情報シート作成など本人の人となりやが少しでも把握できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後は家族と密に連絡を取り、本人の様子を伝えたり、家族の不安な事を聞き取りしたり安心してサービスが受けられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅でできていたことが本人にとってなじみであったり、本人らしさにつながるよう地域資源も含めて必要なサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者だけの作業にとどまらず、職員と一緒に参加し、一つの目的を成し遂げることで、互いの良い関係性が生まれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活の意向に寄り添うため、家族に情報提供の協力依頼や家族と一緒になじみの環境を整える取り組みをしている。また、運営会議などを通じて、家族への認知症の理解への支援も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅の頃より、本人と馴染みのある知人の方や家族とのつながりを大切にしている。また、初詣などはなじみとなっている神社やお寺を計画している。	入居前からの友人との面会を歓迎し、初詣には馴染みの寺社へ出かけるなど、これまでの人間関係や習慣を途切れさせない支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活をする中で、本人が得意とする分野の把握に努め、共同作業を通じ本人が役割を持てたり、自尊心が高まるような支援へつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住替えでの退居については、住替え先の施設でのカンファレンスへの参加を通じ、ケアの引継ぎを行っている。同時に住替え先へ相談しにくい困りごとなどは退居後も受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時やケアプラン更新時期に合わせて、本人や家族の思いや暮らし方の希望を伺い把握に努めている。	入居前に聞き取り調査を徹底し、現在は「本人にとって何が楽しいのか」「生きがいは何なのか」をより深く把握するため、アセスメントシートの見直しを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実地調査や、入居時に基本情報シートの記入を家族へ依頼し、本人の人となり分かるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活リズムや心身状態を日々の生活の中で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望・要望や心身の状態に合わせて必要な関係者と話し合いを行っている。必要性があればケアプランの見直しを行っている。	現場スタッフからの情報を吸い上げ、6ヶ月ごとの評価や状態変化に応じたカンファレンスを通じて、チームで計画を更新している。	利用者の「楽しみ」「役割」「生きがい」が反映できるプラン作成のため実践者研修を受けた職員や意欲ある職員の知見を活かし、チーム全体でアセスメントが行えるようになることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化など個別に記録している。情報はスタッフ間で共有し必要に応じてケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族へ希望や要望を伺っている。ボランティア等へも依頼を行い個々のニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の活動の場を活用し、一人一人が趣味を楽しみ豊かな生活ができるよう支援している。自治会に入っているため、回覧板などで地域の情報収集や参加できるイベントへの機会を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	霞ヶ関南病院が協力医療機関となっており、内科医、歯科医、歯科衛生士の訪問診療がある。受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関(霞ヶ関南病院)による月2回の訪問診療、訪問歯科等に加え、専門的な心臓疾患などは在宅時からの主治医との連携を継続できるよう家族に協力を求めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問診療の他、24時間ONコール体制をとっている。日常での情報や気づきを看護師へ報告し適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者との情報交換を行い、入居者が安心して治療を受けられるよう関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態に変化が見られた場合は家族の要望を確認しながら主治医、看護師、ケアスタッフと相談し支援を行っている。	病院や特養を併設する法人の強みを活かし、看取りや重度化の際には役割分担を明確にしなが法人全体のチームで対応を行っている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	24時間ONコール体制で入居者に変化が見られた場合は看護師の指示を仰いでいる。また、家族とは事前のケースを相談し意向を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練を近隣関係機関、消防署との協力により行い、訓練後はディスカッションを通して、災害時の意見交換を行っている。	法人全体でBCP(事業継続計画)を策定し訓練を行っている。災害対策は法人で委員会を設置し検討している。	法人内での対策に加え、地域との協働にも視点を置き、自治会や学校などとの連携を強化できることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的なミーティングや勉強会を通じて、ケアの重要性を全スタッフで共有し、実施している。	e-ラーニング研修やアダーズカフェを通じて尊厳を守るケアを学び、介助の際のさりげない声掛けなどを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者とコミュニケーションを図り、本人の思いや希望をくみ取り自己決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランを中心に本人の生活リズムを大切に、一人一人に合った生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧を希望される方への支援を行っている。整容はご本人に行ってもらうが、困難な場合はお手伝いしたり季節ごとの衣類を選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	長事作りや準備、片付けなどは入居者とスタッフが一緒に行い、食べることにとらわれないように取り組んでいる。また、訪問販売の利用なども取り入れ、食べたい物の選択の機会を作っている。	利用者が自然に盛り付けや片付けを手伝いたくなるような雰囲気作りを大切に、同じテーブルで共に食べる「家庭的な風景」を実現している。テーブルにいつでもお茶が飲めるようポットを置き、利用者同士が交流できるよう工夫している	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎回記録し摂取量などは変化があった場合は引継ぎをしている。食事量が減った方は補食などを要し、少しずつでも口にしていだけるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3ヶ月に1回の歯科訪問診療と毎週の歯科衛生士の訪問があり、入居者一人一人に合った口腔ケアの提供を行っている。また、歯科衛生士とケアワーカーとの間で、情報共有や勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、その方にあった排泄ケアを行っている。状態の変化に応じて介助の方法を職員間で共有している。本人が失敗に気付かないようさりげないかわりを意識している。	個別の排泄パターンを把握し、突き当たりにトイレを配置した建物の構造も活かしながら、利用者の表情や仕草を見ながら、自尊心を傷つけないさりげない誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬のみに頼るのではなくヤクルトや乳製品を取り入れたりしている。必要に応じて医師・看護師へ相談し排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日など設けず、本人の状況に合わせてお誘いしている。使用品についても、本人が使い慣れたものを使用している。また、タイミング、時間もそれぞれであるので、個別に支援している。	決まった曜日ではなく、本人の体調や「機嫌の良いタイミング」を現場の職員が合わせて、個別に入浴を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、安眠できるよう日中の過ごし方、生活のリズムに配慮している。日中、疲れがみられた時は休息する時間を設けて、その日の本人のペースに合わせたケアを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方一覧はすぐに確認できるようにしている。また、日々様子を観察し、服薬内容も医師、看護師と相談し検討に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの暮らしを大切に、また共同生活として、「一緒に、共に」取り組む事を大切にしている。畑作りをはじめ、ホームの皆で一つの物を作っている。もちろん個々の趣味も大切に活動している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の感染症状況の把握に努めて、リスク管理をするとともに感染予防対策のもと工夫をしながら外出支援を行っている。	感染症対策を行いつつ、家族による散歩や外出を積極的に推奨し、近隣スーパーへの買い物をし、フードコートなどでお茶を飲んだりなど社会との接点を維持している。近くに住む家族の協力を得ながら散歩や外出の機会を作っている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上、個別に対応している。買い物の支援では本人の支払い行為を奪わない様であることを願っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望時は電話や手紙のやり取りができるように支援をしている。家族からの電話は本人につなげている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活する上で不快なく、不安にならないよう、音や光に配慮している。また、季節感を感じられるよう、生花を飾ったり、設えを変えている。スタッフ自身も足音や声のトーンにも配慮している。	建物の内装全体が木材を使用し温もりあるとても落ち着く雰囲気である。照明の明るさは暖色系であり、外からの日差しが入りとても明るい。解放感があり、利用者の席は決まっておらず、縁側にはウッドデッキがあり、皆、自由に過ごせる環境である	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お好きな場所で好きなように暮らせる空間作りに努めている。随時、テーブルの配置や個数の増減をして、人間関係にも対応できるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地よく生活できるよう、タンスや机・飾りなどを使い慣れたものや好みのものを活かして入居者一人一人が安心して居心地よく生活できる環境を作っている。	使い慣れた家具の持ち込みを可能にし、個人のプライバシーを守りつつ、本人が安心して過ごせる個別環境を作っている。また、縁側があり居室から庭に出ることもできる	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理や洗い物などスタッフは見守りを行い、安全で自立した生活が送れるよう働きかけを行っている。また、敷地内の庭や畑なども利用できるような環境を整えている。		